

特別例会「人生フルーツ」-6月6日(水)-

例会のお知らせ

■名称/第96回特別例会『人生フルーツ』

■日時/6月6日(木)

①PM 2:00-、②PM 4:20-、③PM6:40-

■場所/加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

■受付/入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡してください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

■主催/加古川シネマクラブ

■後援/加古川市教育委員会

■その他/この例会は、特別例会として、一般の人も入場できます。

■入場料金 一般/1,300円、シニア・障がい者・会員同伴者/1,100円

【例会作品データ】

■タイトル/人生フルーツ

■監督/伏原健之

■プロデューサー/阿武野勝彦

■ナレーション/樹木希林

■データ/2016年、日本、91分

■ジャンル/ドキュメンタリー

■作品/ある建築家と雑木林のものがたり

90歳の建築家、津端修一さん(元広島大学教授、元日本住宅公団)と、87歳の妻、英子さんは、愛知県春日井市の高蔵寺ニュータウンに暮らしている。

津端さんは、戦後最大の都市計画ともいわれた「高蔵寺ニュータウン」の基本設計をした人物で、建築家の丹下健三やアントニン・レーモンドに師事した後、日本住宅公団の創設期の中心メンバーとして、激動の戦後日本の“住宅”、“団地”、“ニュータウン”を作り続けてきた。

津端夫妻は自ら設計をした高蔵寺に、完成当時から住み続けていて、約50年が経過した。その自宅では、50年前に植えた小さな苗木が、今では鬱蒼とした雑木林に成長し、枯葉をまいて土を耕し続けた畑では、年間を通じて約100種類もの野菜や果実が育っている。妻の英子さんは、外食はせず、コンビニで買い物はしない主義。畑で収穫した作物を使って、夫のために自慢の手料理を丁寧に作る日々を送る。英子さんは言う、「食は命」と。

ふたりが暮らす家は、尊敬するアントニン・レーモンドの自邸を模した、30畳一間、平屋建ての杉の丸太小屋。食事の仕事も睡眠も、ワンルームで過ごす機能的で



ナレーション 樹木希林
プロデューサー 阿武野勝彦 監督 伏原健之 音楽プロデューサー 阿武野勝彦 撮影 村松道雄 音声 伊藤和博 編集 阿武野勝彦 下見 阿武野勝彦
制作 加古川シネマクラブ 加古川市教育委員会 加古川市文化センター 加古川市文化センター 加古川市文化センター 加古川市文化センター
津端修一さん90歳、英子さん87歳 風と雑木林と建築家夫婦の物語 Life is Fruity.com

快適な生活である。ふたりの暮らしぶりは、まるで現代の桃源郷のよう。90歳と87歳、津端夫妻のモットーは「年を重ねるごとに美しくなる人生」。

番組のナレーションは、女優の樹木希林。70歳を超えても輝き続ける女性の代表格で、自らの人生の終末について、その発言が常に注目を集めている。

この番組では、建築家、津端修一さんと、妻の英子さん、ふたりの暮らしを追った“人生のものがたり”である。(東海テレビの番組紹介から)

「死刑弁護人」「ヤクザと憲法」などの東海テレビ製作ドキュメンタリーの劇場版第10弾。

私の映画 KAN

「空海 KU-KAI 美しき王妃の謎」

チェン・カイコー監督 × 原作 夢枕獏

偉大な宗教家「空海」の唐での修行時代を描いているのだろうと勝手な想像をしているうちに映画が始まった。えっ!なんだ、なんだ えっ!と10分ほど頭をフル回転。そういえば、タイトルに中国語で「猫妖伝」と書いていたような。観終わった後、思わず「金田一耕介中国版」だと一人でつぶやいた。舞台は、1200年以上前の中国・長安。僧侶「空海」と詩人「白楽天」。ふとしたきっかけで出会った二人を中心に事件が次々と起こっていく。お茶目でいたずら心のある空海を演じているのが 染谷将太。終始貫かれているのが、「美」。

王宮での極楽の宴の場面には、目を見張るほどの美しさと楽しさがありました。幻想とわくわく感、映像の美しさに最後までポーと引き込まれてしまいました。多くの年配者が観に来られていたので、思わず感想を聞きたくなりました。会員のみなさん観にいかれましたか？(和)

■題名／空海 KU-KAI 美しき王妃の謎(原題／妖猫伝 Legend of the Demon Cat)

■監督／チェン・カイコー ■原作／夢枕獏

■キャスト／染谷将太、ホアン・シュアン、阿部寛、チャン・ロンロン、松坂慶子

■2017年、日本・中国合作、132分

2018年度定例総会議案の要旨

4月26日(金)の午後7時過ぎから、**2018年度の加古川シネマクラブ定例総会**を行いました。承認された議案は、例会会場で配付などして手渡す予定です。

まず、2017年度の活動報告と決算報告についてです。例会を中心とした通常どおり活動が行われ、事業内容についてはほとんど問題が無いのですが、最も大きな課題である会員数は1名の増加にとどまりました。また、収支については、会員外の一般の方からも観覧料をいただく特別例会を3回行い、関係者のご尽力のおかげで13万円以上の収入増の結果となり、前年度の未払金も解消しています。関係者の皆様には物品と労力の提供を受けたほか、兵庫県映画センター様からは映画事業の協力に対する礼金を多くいただくなど、支出減と収入増によく努めた結果でした。

役員の選任については、千知佐子さんが運営委員から代表委員に、釣恵さんが新しく運営委員に、松本誠一さんが監査委員に選任されました。

次に、2018年度の活動計画と予算についてです。何と云っても、収入と会員数を増やすことを重要と考えます。収入増のため、一般の方からも観覧料をいただく特別例会を6月に実施する計画としました。なお、第100回例会を特別なものとする方向で考えています。

また、一昨年度から行っている明石シネマクラブとの交流事業である、それぞれの例会に両会の会員が参加できる例会相互参加事業は、好評で、経費負担もほとんどないことから、引続き続きます。

毎回説明しているとおり、200名近くの会員数にならないと会の活動が困難です。会員の皆さんには引き続き、入会者を増やすことについてご協力お願いいたします。

前回例会の報告

3月15日の例会では、インドで迷子になった5歳の少年が、25年後にGoogle Earthで故郷を探し出したという実話を、「スラムドッグ\$ミリオネア」のデブ・パテル、「キャロル」のルーニー・マーラ、ニコール・キッドマンら豪華キャスト共演で映画化したヒューマンドラマ『ライオン-25年目のただいま-』を鑑賞しました。テーマも作品の質も高く、「たいへん良かった」という

評価が多かった。

参加会員94人、明石シネマクラブからの参加者4人で合計98人の参加者でした。

明石シネマクラブ例会情報

■名称／『ブランカとギター弾き』(2015年、イタリア、77分)

■解説／写真家として活躍する長谷井宏紀がイタリア製作映画として手がけた監督デビュー作で、フィリピンを舞



台に、孤児の少女と盲目のギター弾きの旅を描いたロードムービー。マニラのスラムに暮らす孤児のブランカは、母親を金で買うことを思い付き、盲目のギター弾きピーターと旅に出る。ピーターから得意な歌でお金を稼ぐことを教わったブランカは、レストランで歌う仕事を得てお金を稼ぎ、計画は順調に進んでいるかに思えた。しかし、そんな彼女の身に思いもよらぬ危険が迫っていた。

長谷井の第一回長編監督作品となる本作は日本人初となるベネチア・ビエンナーレ、ベネチア国際映画祭の出資で製作され、第72回ベネチア国際映画祭でソッリーゾ・デベルソ賞、マジックランタン賞を受賞。

■監督／長谷井宏紀

■出演／サイデル・ガブテロ、ピーター・ミラリ 他

■日時／6月13日(水) ①PM2:00-、②PM4:30-、③PM7:00-

■場所／アスパシア明石9階子午線ホール(JR明石駅東徒歩5分)

■目的・内容／加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付／会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://kagogawacinemaclub.c.ooco.jp/>

会員数135人(3月15日現在)